## 第9回

## HIROSAKI

## 震災研究連絡会

弘前大学のネットワークで震災研究を広げよう。

日時 2012年 4月 4日(水) 18:00~

場 所 コラボ弘大1F コミュニティ・スペース

司会 檜槇 貢(ひまき・みつぐ) 弘前大学 大学院地域社会研究科 教授

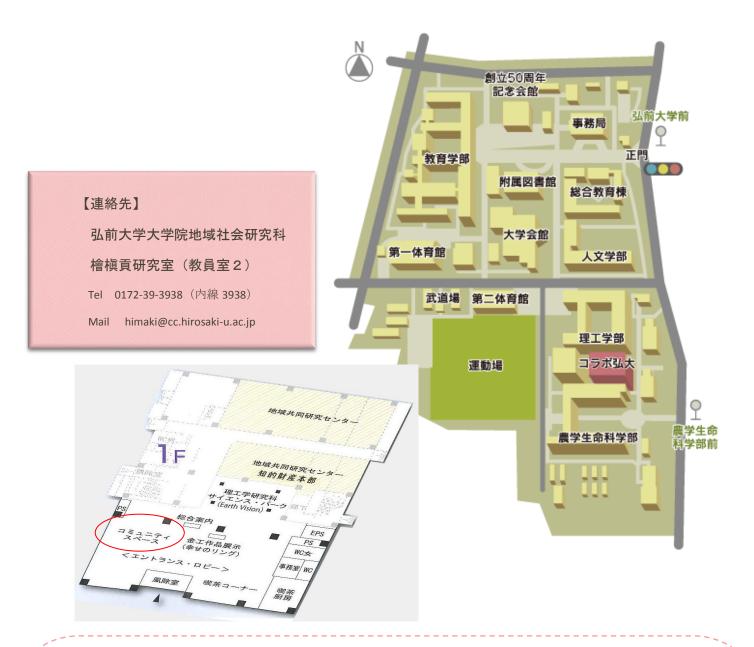
18:00~19:00

田中 重好 (たなか・しげょし) 名古屋大学文学研究科 教授

「東日本大震災:社会学から何を問うか」

19:00~20:00 意見・情報交換

- ※震災対応や震災研究に興味のある方はどなたでも参加・聴講できます。
- ※当日2つの報告の後に、震災に関する情報・意見交換を行います。情報をお持ちの方はこの機会にご紹介ください。
- ※連絡会終了後、有志の懇親会を予定しています。



第8回震災研究連絡会は、2012年3月6日に行われた。

## 【報告者】

檜垣大助(ひがき・だいすけ) 弘前大学農学生命科学部 教授 「東日本大震災における斜面災害の発生実態」 白石 睦弥(しらいし・むつみ) 弘前大学特別研究員

「近世・近代における震災対応と復興 ~東北の事例を中心に~」

【概要】

「震災発生後の一連の地震で、地滑りなどの斜面崩壊が宮城県以南で多数発生した」「震度5 強以上を観測した地域で発生割合が高くなる」一。地形学が専門の檜垣大助・農学生命科学部教 授が、自らを含む約10人の研究者グループの分析を中間報告した。

また、白石睦弥・弘大特別研究員(災害史)は「かつて災害は、避けられない『災い』と捉えられ、例えば本県など積雪地でも『雪害』という言葉自体がなかった。しかし、特に戦後になって『災害とは社会に害を及ぼす自然現象』という考え方が普及し、防災という視点も生まれた」と指摘した。さらに、1933年の「昭和三陸津波」の際、新聞社が募金を募って八戸市などに立てた「津波碑」を例に、災害の教訓を後世に伝える努力の必要性を強調した。(K)

第10回連絡会は2012年5月、コラボ弘大1Fのコミュニティ・スペースにて開催予定。